



平成 27 年度 伊豆市議会第 2 委員会 行政視察報告

杉山誠

7 月 15 日(水)

●福井県勝山市役所にて、子育て支援日本一の取り組みについて研修

勝山市は、福井県東北部に位置し、人口は約 2 万 5 千人、繊維産業を中心とした商工業と農林業を基幹産業としています。

また、勝山市は恐竜化石発掘でも有名で、国内の恐竜化石の約 80%がこの地で発見されているそうです。

高齢化率は約 30%と伊豆市より低いですが、特に子育て支援に力を入れており「子育て環境日本一」を目指して、様々な子育て支援策を展開しています。

子育て支援策を強化した経緯について、人口の減少、少子化・晩婚化の進展、高齢化が進む中で、長引く不況による経済的不安が相まって出産子育てへの不安が増大し、新たな少子化を加速させることが懸念されたためとしています。

具体的には、①世帯の第 3 子以降 3 歳未満児の保育料の軽減。②第 3 子以降の子を「かつやまっ子」として認定し、すくすく育成奨励金を交付。③子育て支援センターを設置し、未就園児等地域の子育て支援の充実を図る。等の支援策を講じて、育児不安の解消が目指されました。

保育料については、世帯の第 3 子以降 3 歳以上の児童(1 人入所)の保育料半額。

すくすく育成奨励金は、第 3 子 30 万円、第 4 子 40 万円、第 5 子以降は 50 万円を支給。市内児童センターの利用料(全小学生)、市内放課後等デイサービス利用料を無料としています。

このほかインフルエンザ予防接種費用の助成、にこにこ妊婦奨励金として出産 1 回につき 10 万円支給(条件あり) さらに、言葉の育ち教室(無料) 5 歳児検診の実施等を市単事業として行っています。

また、県補助と合わせてこども医療費助成、保育園等の利用者負担金の大幅軽減(一部無料化)等もおこなってきました。

また、保育園については、公立保育園の民営化を進めてきており、現在は公立 2 園、私立 9 園となっています。さらに、休日保育や母親の求職活動をする期間についても支援対策を設けています。

このほかにも手厚い支援策を講じていますが、出生数は横ばいか微減の状態推移しており、今後とも出生数の増加に効果的な施策の実施が必要とのことでした。

さすがに子育て支援日本一を目指すだけあって、勝山市の取り組みには学ぶものが多くありました。財源の確保の問題もありますが、出生数の減少が著しい伊豆市では今後さらなる子育て支援策の拡充が必要でしょう。

7月16日(木) 午前

●石川県金沢市役所にて、金沢新幹線開業に伴う文化財を生かした取り組みについて研修

寺内町から始まり城下町として発展した金沢は、戦災を受けなかったこともあり、当時の歴史的建造物や町並みだけでなく、伝統工芸、伝統芸能、食文化も多く受け継がれています。

金沢市では北陸新幹線の開通に合わせて、平成25年に金沢市プロモーション推進課を設置し、5年間の計画で様々なプロモーションの取り組みを行ってきました。具体的には、東京、名古屋、大阪の3大都市圏から2時間半の距離となることから首都圏プロモーションを強化。観光誘客を図るとともに、金沢の伝統文化を生かしてリピーターの拡大にも取り組んでいました。

北陸新幹線開業効果として、在来線に比べて利用者数は3.2倍、市文化施設入館者数は32%増、金沢21世紀美術館入館者数は33%増となるなど、実績を上げています。しかしこれは一時的でこれからも継続的に交流人口が得られるような取り組みを継続することが必要なようです。

7月16日(木) 午後

●富山県射水市にて、中学校の統合について研修・視察

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、人口は約9万3500人、面積は109,18km²です。

射水市では、平成21年2月に奈古中学校PTA役員等から、他校との統合に関する要望書が教育委員会に提出されたことから検討を始め、検討委員会より奈古中学校と新湊西部中学校の統合が望ましいとの中間報告書が教育委員会に提出されました。

このように保護者側から統合に積極的な意見が出た背景には、校舎の老朽化や生徒数の減少による学級数の減。それにともない専門教科教員の確保ができなくなることや、部活動数の減などが挙げられていました。

平成22年度で自治会、保護者と意見交換会を行い統廃合については賛同が得られ、校舎の位置や整備方法についてはさらに丁寧な計画を示して合意形成を進めています。

しかし、校歌、校章や制服に関してはスムーズに決まらなかったそうです。

反省点としては、後からいろいろな意見が出てきたことなどから、PTAや各校長にも十分な根回しをしておけばよかったとのこと。

新校舎の建設費総額は28億5,200万円で、最近の建設費値上がりの影響で当初計画されたものより多くなっています。このうち市債は18億2,300万円で合併特例債を利用しています。

統合後の評価は、保護者からは良い評価を受けているが、廃校となった地区住民からはさびしいといった意見があるそうです。

今まで徒歩通学であった中学校なので、通学距離もさほど遠くないことから比較的円滑に統廃合が進んだとの印象があるが、新しい校風を作るべく、教師、生徒が取り組んでいることも保護者の評価が良い理由のようです。

この後、新湊中学校を見学し、施設内容や学校の取り組みについて説明を受けました。

今回の視察で、射水市教育委員会がPTAや自治会に合意形成を得るために行った取り組みをきめ細かく聞くことができました。

伊豆市でも中学校再編性を進めるからには、射水市と比較にならないような通学距離の問題もあることなど、さらに保護者・住民の理解を深める努力が必要だと感じました。

7月17日(金)

●富山市役所にて富山型デイサービスについて研修

事業所(ふるさとのあかり)視察・研修

富山型デイサービスとは、普通の住宅街の民家を利用した施設で、富山から全国に発信した新しい形の福祉サービスです。平成5年に富山赤十字病院を退職した3人の看護師さんが開所した「デイケアハウスこのゆびと一まれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしにかかわらず受け入れたことから始まり、後に富山型と言われるようになったそうです。

開所当初は、補助金制度に当てはまらず行政からの支援はなかったが、平成8年度から、障がい者(児)へのサービスでは、富山市独自の障がい者(児)の一時預かり事業の受託を開始、また平成9年度から高齢者のデイケアサービスへの補助金が実現しました。

平成12年度には、介護保険制度がスタートして経営が安定しました。

平成15年11月に、富山型デイサービス推進特区が認定され、介護保険上の指定通所介護事業所等での知的障がい者(児)のデイサービスの利用が可能となりました。

富山型デイサービスは、小規模ゆえに家庭的な雰囲気の中、利用者が自然に過ごせることや、個々の状態に合わせたきめ細かいサービスが受けられること、利用者を限定しないため、それぞれが自分のできることに喜びを感じて関わり、良い効果を生み出す事ができると言われています。ただし、高齢者と身体、知的障がい者、心身障がい児が同時にサービスを受けることになるので、障害特性に応じた処遇が確保されるかという不安があるそうです。

市役所での研修後、事業所【ふるさとのあかり】を訪問して、代表の山田紀子さんからお話を伺いました。山田代表は、高齢の義母、老老介護の両親を見ていてなんとかしたいと思ったのがきっかけで、小規模できめ細やかなケア、皆と楽しく集い、語らい、生きがいを感じられ、毎日がその人らしく過ごせればよいなと思い開設したそうです。

赤ちゃんからお年寄りまで、障害がある人もない人も、皆一つの家族のように過ごせ、だれもがいつでもいつまでも住み慣れた地域で在宅生活が送れるように支援できる、心のふるさとを照らすあかりでありたい、との思いとともに開設当時から現在までの経過や障がい者の利用が増えている現状などを語ってくれました。

また、ここでは5人の障がい者をスタッフとして雇用しており、山田代表の熱い思いが伝わってくるような施設の雰囲気を感じました。

最近ビジネスとして開設される事業所が増えている中で、福祉の原点を感じさせる事業所訪問でした。